

地域創生・SDGsの実践

—実学・現場重視の視点から—

講師 木村 俊昭 氏

行田まちなか再生エリアプラットフォームは、公民学連携により、行田市駅周辺のエリアを中心に、たび（足袋・旅）「あるく」が楽しい街として、そこに住む方々にとって豊かな環境と暮らしを実現するための活動をしていきます。このエリアは、日本遺産の構成資産である「足袋蔵」や「忍城址」などの歴史と文化、「水城公園」などの水と緑の集積を内包する市の顔と呼ぶにふさわしいエリアととらえています。そして、この事業では、従来から続いている様々な市民活動や様々な組織が開催しているイベントなどをつなぎ、相乗効果による活性化を目的としています。

本フォーラムは、その活動の一環として、まちの活性化の知恵や知識をもつ多方面の講師を招いて、未来の行田のための基盤づくりをしようとするものです。幅広い市民の方々のご参加をお待ちしています。

木村 俊昭

日本地域創生学会長・地域創生実践総合研究所長
北海道文教大学特別学長補佐・教授 経営学博士(学術)

北海道生まれ。小樽市、内閣官房・内閣府、農林水産省等にて、地域創生・SDGsや6次産業化の推進、地域人財養成等を担当。東京農業大学総合研究所教授等を経て、現在、北海道文教大学特別学長補佐・教授、東京大学大学院非常勤講師(修士課程・博士課程講義)、長崎県立大学大学院客員教授(博士課程論文指導)、日本地域創生学会長・地域創生実践総合研究所長等として、大学や大学院(主に社会人の学び直し)講義のほか、特に過疎地域、離島や被災地等にて講話や現地アドバイスを実施中。NHKプロフェッショナル「仕事の流儀 木村俊昭の仕事」ほか出演。単著「『できない』を『できる!』に変える」(実務教育出版)「地域創生の真実」(農の蔵文庫)「地域創生の本質」(ぱるす出版)、「人生100年時代のキャリアデザイン再考論」(東京農業大学出版会)ほか多数。



開催日時：2023年8月 5日 (土) 14:00～15:30

申込締切：2023年7月28日 (金) 17:00まで

参加費無料、会場受付開始13:30～

会場：行田市総合体育館 研修室 (定員100名) スリッパ持参

講師：木村 俊昭 氏

司会：鈴木 弘樹 (千葉大学) 今井 弘 (ものつくり大学)

主催：行田まちなか再生エリアプラットフォーム

問合せ：gyoda.machinaka@gmail.com

申込みはQRコードもしくは裏面のURLからお願いします



<参加申込方法>

下記①～⑤をご記入の上、QRコードもしくは以下のURLからお申し込み下さい。定員に達しましたら募集を締め切らせていただきます。

<https://onl.la/2ZQtWib>

電話、FAXおよび郵送による参加申込は受付できませんのでご注意ください。詳細の案内は、登録いただいた方に開催日が近くなりましたら、メールにてご案内致します。

- ①メールアドレス（記載された先にご連絡いたします）
- ②メール連絡件名「第2回行田フォーラム」とご記載下さい。
- ③氏名
- ④勤務先・所属
- ⑤参加形式（会場参加、オンライン参加のいずれか）

<参加者の皆様への注意事項>

- ・講演中の録音・撮影等は固くお断りいたします。

<行田まちなか再生エリアプラットフォームの活動内容と目指す方向性>

行田まちなか再生エリアプラットフォームは、2023年4月3日に発足しました。主な活動内容は、まちの課題を把握し、今までのまちづくりの活動と連携を図りながら、2023年度から3年間かけて公民学連携で行田市のまちなかを再生するための「未来ビジョン」を作成します。

■エリアの課題

- ①空き地・空き店舗などの増加による商店街等の活力・魅力の低下
- ②忍城址や足袋蔵など豊富に存在する歴史・文化的資源の点在による一体感の不足
- ③中心市街地における人口減少の抑制
- ④市民主体のまちづくり活動の継続・拡大と市民意識の啓発

■未来ビジョン策定目的とエリアの目指す将来像のイメージ

【策定目的】たび（足袋・旅）「あるく」が楽しい街において豊かな環境と暮らしを実現する。そのため、行田たび「あるく」まちづくりビジョンを策定する。

【エリアの目指す将来像】

エリアの課題は、①②③④であることから、目指す未来像は、日本遺産「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」を背景に、

住民に対して

・行田の歩み継承し、あるいは心も体も元気になり、未来に向かってあるくことに着眼点を置き策定する。

また、来訪者に対して

・足元をささえた「足袋の街」行田のまちを旅して楽しい街にすることに着眼点を置き策定する予定。